

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

裸の王様が会社をダメにする（三菱電機）

1. 裸の王様になっていると自覚した時にはすでに手遅れだったのが、三菱電機の会長職を引責辞任した柵山正樹氏だ。会見に臨んだ柵山氏は「裸の王様になっているという認識はなかった」と力なく言った。35年以上にわたって製品の検査内容をごまかすなど、品質にかかわる不正が工場で行っていた。工場の管理職が作業員らの不正を認識しても、その事実を本社に伝えることはなかった。
2. 柵山氏は社長を務めた2018年までの4年間に、毎年40回以上、工場などに出向き、従業員を集めて数百人規模の対話集会を開いた。しかし現場との距離を縮められなかった。理由は、「対話集会に出席したり、直接メールを送ったりするのは、私にポジティブな従業員だけだということに、もっと早く気がつくべきだった。私に否定的な従業員は、そういうことをしないという認識がなかった」とのこと。
3. よく大企業の社長が、「社内の風通しを良くするために、作業服を着て従業員と一緒に社員食堂で食事をしている」などと言っているが、風通しのような組織づくりというのは、本来そんな生易しいことではないのである。

(参考:「日経ビジネス」2021年11月1日号)

経営者のための社会学

テレビ局の生きる道はどこか

1. NHKの調査では、平日にテレビを見ない人が2015年の15%から20年には21%へと増えた。16~19歳や20歳代では約半数がテレビを見ない。彼らが見ているのはインターネットだ。テレビからネットへのシフトは広告にも現れている。日本国内のインターネット広告費がテレビの広告費を超えたのは19年。20年にはネット広告が6%増の2.22兆円に対し、テレビ広告は11%減の1.65兆円と差は広がった。ネット広告はこの10年間で約3倍になっている。
2. さて、日本のテレビ局の生きる道はどこにあるか。1つは「マスコミ」をやめることだと思う。マスよりニッチ、広さより深さである。同じことは大手メディア全般、新聞社などにもいえる。

(参考:「週刊東洋経済」:2021年11月20日号)

人事・労務について

百年樹人

福地 茂雄（アサヒビール社友）

1. 「十年樹木、百年樹人」という書籍があります。樹木を育てるのは十年、人を育てるのは百年を要するという意味だそうです。かつてアサヒビールの中間管理職を務めていた頃、「部下の仕事は取るな、上司の仕事を取れ」と教えられたことを思い出します。同じ意味ですが、「将来を期待する社員には、大きな着物を着せよ。窮屈な着物を着せると人間まで小さくなってしまおう」とも言われたものです。
2. これは社員の視野を広げ、器を大きくして、人材を育成するのは経営者の重要な役目の一つであること、つまり「百年樹人」という視点の大切さを示していると思います。

(参考:「致知」2021年12月号)

古典に学ぶ

優越なる国家

(解説) いずれの国家においても、自国の商工業を発達せしめんとするには、海外に我が国産の販路を求め、人口の増殖するにおいては領土を拡めることを論ずるのみならず、様々なる策略をもって自己の勢力の増大を図るのである。現に欧州列強が五大州に雄飛しているゆえんは、まったくこれらの事情によるもので、優越なる位地を占むるものは、優越なる国家と称せらるるのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)